

第15回世界林業会議（WFC）を通じた 我が国の取組の紹介について

森から世界を変えるプラットフォーム
6月セミナー（2022年6月10日（金））

林野庁 森林整備部 計画課

海外林業協力室 谷本 哲朗

第15回世界林業会議（WFC）概要

- ・ 日時：2022年（令和4年）5月2日（月）～6日（金）
- ・ 場所：ソウル（大韓民国）Coexセンター
- ・ テーマ：「森林と共にグリーンで健康的で強靱な未来を築く」
（Building a Green, Healthy and Resilient Future with Forests）
- ・ サブテーマ
 - ① 流れを変える：森林減少・劣化の反転
 - ② 気候変動の緩和・適応や生物多様性保全に向けた自然に基づく解決策（Nature-based solutions）
 - ③ 成長と持続可能性に向けたグリーンな道筋
 - ④ 森林と人間の健康：つながりの再考
 - ⑤ 森林情報、データ、知識の管理と共有
 - ⑥ 境界のない森林：管理と協力の強化
- ・ 主なプログラム：上記テーマの下、全体会議やサブテーマ毎の分科会、特別イベント、閣僚級フォーラム、100を超えるサイドイベント等が開催

発信したい情報

◎ 6年に1回開催される、森林・林業分野で世界最大規模の会議である
WFCは、我が国の森林・林業分野の取組を世界にアピール出来る機会。

◎ このため、主に以下の点について本会合での情報発信を検討

1. 気候変動対策の緩和策として、我が国が進めているJCM（2国間クレジット制度）における**REDD+**の取組について発信
2. 近年激化する気象災害等の気候変動への適応策として、我が国が長年培ってきた治山技術を途上国支援の事例も交えつつ紹介

また、「持続可能な木材利用に関する閣僚級フォーラム」においては、我が国の「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用の取組や、国際熱帯木材機関（**ITTO**）を通じた生産国支援について紹介

第15回WFCで参加・実施した主なイベント一覧

◎サブテーマ（1）「流れを変える：森林減少・劣化の反転」

第2セッション【5月3日】

◎持続可能な木材利用に関する閣僚級フォーラム【5月3日】

◎サイドイベント①

「森林を活用した防災・減災技術による地域強靱化の取組」

（林野庁、森林総合研究所、国際協力機構 共催）【5月3日】

◎サイドイベント②

「民間セクターを活用したREDD+の推進」

（林野庁、森林総合研究所 共催）【5月4日】

WFCイベント参加までの流れ

【サブテーマセッション】

- ・当初、サブテーマ③「成長と持続可能性に向けたグリーンな道筋」への登壇を主催者サイドに打診したが、主催者サイドとのやりとりの中で、サブテーマ①にスロットを確保。

【閣僚級フォーラム】

- ・主催者サイドからの登壇の打診を受けて受諾

【サイドイベント】

- ・サイドイベント申請検討→申請（2020年 8月頃）
（当初は2021年5月24日～28日開催を予定であった）
- ・その後、FAO・ホスト国（韓国）が申請内容をレビューし、採否を通知

参加・実施イベントの概要①

～サブテーマ①「流れを変える：森林減少・劣化の反転」第2セッション～

◎日 時：2022年5月3日（火）11:00～12:30

◎場 所：Coex内 Grand Ballroom D

◎登壇者：

フォトウカ FAO林業部REDD+チームリーダー

ビアンカ エクアドル環境副大臣

織田 林野庁次長

ベンジャミン 緑の気候基金（GCF）森林・土地利用担当上席調査役
ほか6名

モデレーター：ガブリエル 国連環境計画（UNEP）気候変動ユニット長



◎我が国からの発表内容

6条実施指針を含むパリ協定及びREDD+を概説すると共に、我が国が取り組んできた二国間クレジット制度（JCM）の下でのREDD+の経験及び今後の将来展望を紹介。

参加・実施イベントの概要②

～持続可能な木材利用に関する閣僚級フォーラム～

◎日 時：2022年5月3日（火）17:30～19:00

◎場 所：Coex内 Auditorium

◎登壇者：セメド FAO事務局次長

チェ 大韓民国山林庁長官

ンドンゴ カメルーン森林・野生動物省大臣

織田 林野庁次長

パテック オーストリア農業・地域・観光省副大臣

コルドバ ペルー農業開発灌漑省 森林・野生動物庁長官

ホワイト ガボン水・森林・海洋環境省大臣



◎我が国からの発表内容

- ・ 持続可能な木材利用の拡大には、再生可能な資源である木材の循環的利用（伐って、使って、植えて、育てる）による持続可能な森林経営が大切であることを強調
- ・ 我が国における木材利用の促進の取組は、幅広い関係者による協議会の設立等の官民連携イベントや「公共建築物等木材利用促進法」の制定等の政策的な枠組みの整備により、着実に進展
- ・ 海外での取組としては、ITTOへの拠出を通じて、ベトナム等の木材生産国における、持続可能な木材利用の拡大を支援
- ・ 持続可能な木材利用のグローバルな展開のために、我が国の木材利用促進の経験を共有すると共に、引き続き、FAOやITTOを通じて、持続可能な森林経営と木材利用に貢献

本フォーラムの成果として「持続可能な木材利用に関する閣僚宣言」を採択

参加・実施イベントの概要③

～サイドイベント① 「森林を活用した防災・減災技術による地域強靱化の取組」～

◎日 時：2022年5月3日（火）17:30～19:00

◎場 所：Coex内 Conference Room 307A

◎趣 旨：地球規模での気象災害激化が懸念され、気候変動の影響への適応策が重要となっている中、森林の活用等による防災・減災技術が培われてきた我が国の森林による防災・減災に関する経験・知見を紹介するとともに、FAOやJICAと通じた国際協力の取組や地域の強靱化方策について議論。

◎プログラム：



タイトル

発表者

気候変動適応とレジリエンスにおける森林・樹木の役割について

エイミー FAO林業部森林と気候チームリーダー

治山～日本の森林保全と東日本大震災後の海岸防災林の再生～

早坂 林野庁海外林業協力室課長補佐

森林の機能を活かした土砂災害リスクの減少（F-DRR）のケーススタディ

岡本 森林総研森林防災研究領域治山研究室長

日本支援による北マケドニアでの適正な森林管理を通じたEco-DRRプロジェクト

ステフコ 北マケドニア危機管理センター 分析評価戦略計画局長

質疑応答とパネルディスカッション

※モデレーター：平田泰雅 森林総研 研究ディレクター

参加・実施イベントの概要④

～サイドイベント②「民間セクターを活用したREDD+の推進」～

◎日時：2022年5月4日（水）17:30～19:00

◎場所：Coex内 Conference Room 327B

◎趣旨：民間セクターも巻き込んだ森林減少・劣化の抑制による排出削減等（REDD+）の実施推進と、我が国で推進しているJCM-REDD+のさらなる普及を見据えて、JCM-REDD+の概要及び取組事例の紹介のほか、REDD+の推進における民間セクターの重要な役割について議論。

◎プログラム：



タイトル

発表者

REDD+における国際的なトレンド

フォートゥナ FAO林業部REDD+チームリーダー

REDD+方法論の開発に対する日本の貢献

宮本 森林総研森林植生領域主任研究員

JCM-REDD+の概要

石川 林野庁海外林業協力室国際森林減少対策調整官

カンボジア プレイロンでのJCM-REDD+プロジェクト

浦口 コンサベーション・インターナショナル・ジャパン テクニカルディレクター

ラオス ルンプラバンでのJCM-REDD+プロジェクトの概要

ボウニティフォン ラオス国立農業森林研究所 研究員

カンボジアにおけるREDD+の進展と挑戦

ウイ カンボジア環境省次長

質疑応答とパネルディスカッション

※モデレーター：平田泰雅 森林総研 研究ディレクター

参加・実施イベントの概要（その他）

～モントリオール・プロセス作業部会～

◎モントリオール・プロセスとは

1992年の地球サミットにおいて、持続可能な森林経営の進捗状況を客観的に把握、分析、評価するための「ものさし」（＝基準・指標）の必要性が言及されたことを受け、我が国を始め米国、カナダ、中国、豪州、NZ等の温帯・亜寒帯林を有する12カ国が参加し、基準・指標の作成と適用を進める取組。1995年に7基準・65指標を策定（2008年に7基準54指標に改定）、国別報告書の作成・公表等の取組を推進。
（世界的にはこのほかフォレスト・ヨーロッパ（欧州46カ国）、ITTOプロセス（熱帯木材生産国36カ国）等、複数の基準・指標に係るプロセスが存在）

◎日 時：2022年5月3日（火）9:00～11:00、4日（水）9:00～12:30

◎場 所：Coex内 Room 300（オンラインとのハイブリット）

◎趣 旨：本プロセスの意思決定機関としての作業部会は毎年秋頃開催されているところ、世界林業会議とタイミングを合わせ、予定を前倒しして実施。

◎主な内容：

- ・統合報告書の進捗の報告
- ・参加国による持続可能な森林経営の推進に関する発表
- ・その他



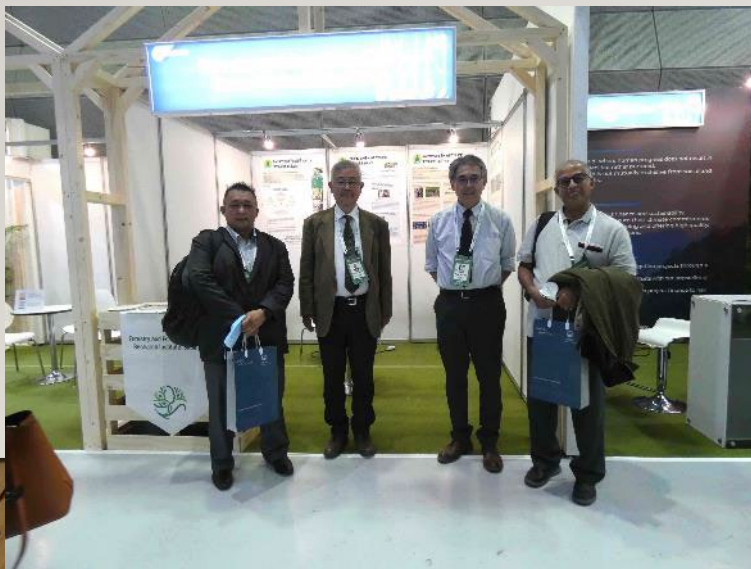
その他（会場の様子①）



その他（会場の様子②）



その他 (会場の様子③)



所感

- ・ 政府関係者、国際機関、大学・研究機関、産業界・企業、非政府組織（**NGO**）の関係者など多岐に亘る森林・林業関係者が一堂に会する国際会議として、また、先住民族、女性、若者組織の関係者の発言も目立ち、様々な立場の関係者を考慮した会議であったとの印象。
- ・ 前回開催（**2015**年、南アフリカ）は**SDGs**が国連総会で採択される直前のタイミングであったところ、今回は**SDGs**、生態系回復の**10**年等の**2030**年を節目とする取組も念頭に、今すぐ行動することの必要性を訴える姿が目立った。
- ・ 前回（ダーバン宣言）と比べ、「持続可能な木材利用」という考え方が「ソウル森林宣言」や「持続可能な木材利用に関する閣僚宣言」として強調されたことも今大会の一つの特徴であったかと思われる。
- ・ コロナ禍での大規模国際会議の開催（**140**カ国以上からオンライン含め**15,000**名を超える参加）で、オンラインとのハイブリット開催はロジ面で相当な負担であったと思慮（主催者サイド、参加者サイドともに）。

（次回はトルコ共和国がホスト国となる意向を示している）

ご清聴ありがとうございました

◎ 林野庁ホームページ（第15回世界林業会議【森林・林業分野の国際的取組内】）

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kaigai/index.html>



◎ 会議公式ホームページ（大韓民国）

<https://wfc2021korea.org/index.html>



◎ 会議公式ホームページ（FAO）

<http://www.fao.org/about/meetings/world-forestry-congress/en/>

